

## 今年も楽しく活動しよう! 平成22年度 美郷町スポーツ少年団結団式



5月22日に美郷町スポーツ少年団の結団式が総合体育館リリオスで行われ、21単位団が参加しました。式では卓球スポーツ少年団の渋谷亨汰さん（六郷小6年）が「スポーツをとおして健康な体と心を養い、ルールを守り、他人に迷惑をかけない立派な人間になります」と宣誓し、団員同士で協力し、楽しく活動することを誓いました。

## 美郷米で元気 金沢小学校の皆さんが「田園アート」に挑戦

6月2日に道の駅「雁の里せんなん」西側の田んぼで、金沢小学校の3～6年生58人の児童たちが「田園アート」の田植えを行いました。この取り組みは町をPRする「うりこめ美郷応援事業」の一環で行われており、3年目となる今年は「美郷米で元気」の文字に挑戦しました。この文字には美郷米を食べて元気に、美郷米をPRして農家や町を元気にしようという願いも込められています。児童たちは農協やみさぼーたーの皆さんから指導を受け、文字の形に張ったロープの内側に黒と黄色の古代米の苗を丁寧に植えました。なかには腰まで浸かり泥こになって作業する児童もいました。



7月上旬から盆前辺りに見頃を迎えます。お近くをお通りの際はぜひご覧ください。

## 学友館で開催中「高橋清見日本画展」 高橋清見さんが来館されました



6月22日に美郷町出身の日本画家・高橋清見さんが美郷町学友館に来館されました。高橋さんは日展で特選を2度受賞するなど、日本を代表する美術展覧会で多くの賞を受賞されています。学友館では高橋さんから町に寄贈していただいた絵画を中心に展示した「高橋清見日本画展」を6月19日から開催しており、この日は高橋さんの来館を知った同窓生も学友館を訪れ、高橋さんを囲んで作品にまつわるエピソードや学生時代の思い出などを語り合っていました。「高橋清見日本画展」は7月25日(日)まで開催しています。

## 障害者が安心して暮らせる 心の通う福祉社会の実現を目指そう 第6回美郷町身体障害者福祉大会

6月16日に中央ふれあい館で第6回美郷町身体障害者福祉大会が行われ、身体に障がいを持つ方やその家族、福祉関係者など約50人が参加しました。大会では町身体障害者協会の鈴木会長から協会の発展や福祉活動に貢献した3名に表彰状が贈られました。また、自立と社会活動への参加意欲を高め、障害者福祉のいっそうの充実を目指して努力することを盛り込んだ大会宣言を採択したほか、松田町長による講演や、踊りなどのアトラクションが行われました。



## 美郷町消防団長に三浦勝二さん 副団長に高橋正尚さん



副団長 高橋 正尚さん (元本堂北部)  
団長 三浦 勝二さん (大町)

### 就任のあいさつ

五月二十日に急逝された故田澤清喜氏の後任として六月一日付をもちまして美郷町消防団長を拝命いたしました。前団長には町村合併に伴う消防団の再編により地域の融和と均衡のとれた消防力の確保や発展にご尽力いただき、団員一同深く感謝するとともにご冥福をお祈り申し上げます。

さて、この度 団長という重責を担うにあたりその職責の重さを改めて痛感するとともに、先人たちの功績の大きさに敬意を表する次第であります。

つきましては身に余る大役ではございますが、団員各位のご協力を得ながら「安全で安心できるまち」の一助となりますよう美郷町消防団一致団結して前進して参りますので、町民の皆様の一層のご支援をお願いし、就任のご挨拶いたします。

美郷町消防団長

三浦 勝二

## 風

### 「不思議を感じる」

美郷町長 松田 知己



町身体障害者福祉大会で  
あいさつをする松田町長

空はなぜ青いのか。でも夕暮れはなぜ赤いのか。小学生の時に感じた疑問です。「あの時は、兄から教えてもらったな」という記憶があります。たわいない日常の些事でも、自分が不思議に思った事柄やその記憶というものは、意外と頭に残っているようです。

さて先月、小惑星探査機「はやぶさ」がおよそ7年にわたる探査を終え、地球に帰還しました。小惑星の採取サンプルを持ち帰ったのは世界初のこと。「世界2番目」ではない快挙に、日本の技術力の高さと将来への可能性を感じたのは私だけではないでしょう。また数年前には、世界の先陣を切って鮮明な月面画像と各種観測データを人類に届けた月探査衛星「かぐや」の例もあり、この分野の活躍は「日本の誇りだ」と私は思います。またこうした技術を含む科学力は、「日本の未来に大切な要素」と私は信じております。そしてこうした偉業に際して、改めて教育の大切さを実感します。こうした科学力は一朝一夕では養成されないと考えます。ではそうした力、どうすれば育まれるのでしょうか。

私は2つの面での教育が大切であると考えています。一つは、文章や会話を理解するとともに、表記または発言することができる教育です。体系的に物事を整理し、分かりやすく伝えることが科学の分野でも必須だからです。もう一つは、何かに気付き、調べることを厭わない教育です。何かに不思議を感じ、それを解き明かす積み重ねが科学力につながると思うからです。そしてこの2点、私は美郷としてもがんばりたいと考えています。

その具体例の一つが、今月開催の「米村でんじろう先生サイエンスショー」です。児童・生徒には、ショーを通じて日常の中にある不思議を感じてもらおうとともに、「そういうことか」という記憶を脳裏に刻んでもらいたいと思います。そうした記憶が下地となって、一人ひとり、少しずつ科学の力が蓄えられていくものと私は期待しております。

科学以外でも、世の中、たくさんの方々の不思議な経験を積み重ねて初めて感じることもあります。だから、「生きること」がおもしろいのかも知れません。